第十九講・大造じいさんとがん①（物語文）

一　題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

今年も、残雪は、がんの群れを率いて、ぬま地にやってきました。

①残雪というのは、一羽のがんに付けられた名前です。左右のつばさに、一か所ずつ、真っ白な交じり毛を持っていたので、かりゅうどたちから、そうよばれていました。②残雪は、このぬま地に集まるがんの頭領らしい、なかなかりこうなやつで、仲間がえさをあさっている間も、油断なく気を配って、りょうじゅうのとどく所まで、決して人間を寄せつけませんでした。

大造じいさんは、このぬま地をかり場にしていましたが、いつごろからか、この残雪が来るようになってから、一羽のがんも手に入れることができなくなったので、いまいましく思っていました。

そこで、残雪がやってきたと知ると、大造じいさんは、今年こそは、とかねて考えておいた、特別な方法に取りかかりました。それは、いつもがんのえさをあさる辺り一面にくいを打ちこんで、たにしを付けたうなぎばりを、たたみ糸で結び付けておくことでした。じいさんは、一晩中かかって、たくさんのうなぎばりをしかけておきました。今度は、③何だかうまくいきそうな気がしてなりませんでした。

翌日の昼近く、じいさんは、むねをわくわくさせながら、ぬま地に行きました。昨晩、つりばりをしかけておいた辺りに、何かばたばたしているものが見えました。

「しめたぞ！」

じいさんはつぶやきながら、夢中でかけつけま

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

した。

〈椋鳩十（むくはとじゅう）「大造じいさんとがん」より〉

---

(1) ――線①「残雪というのは、一羽のがんに付けられた名前です」とありますが、残雪という名前が付けられたのはなぜですか。文章中の言葉を使って答えましょう。

(2) ――線②「残雪は、このぬま地に集まるがんの頭領らしい」とありますが、残雪を頭領だと思う理由としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　常に仲間に気を配り、がんの群れを率いていたから。

イ　このぬま地をかり場としたころからずっといるがんだから。

ウ　ほかのがんに比べて体が一回り大きかったから。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(3) 大造じいさんと残雪の関係について、次の問いに答えましょう。

あ かりゅうどの大造じいさんにとって、残雪はどのような存在(そんざい)でしたか。「～存在。」に続くように、文章中の言葉を使って六字で答えましょう。

□□□□□□存在。

い あのように思う理由を文章中の言葉を使って答えましょう。

□

(4) ――線③「何だかうまくいきそうな気がしてなりませんでした」とありますが、この気持ちが行動となって表れている一文を文章中からぬき出し、初めの五字を答えましょう。

□□□□□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　**次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。**

　がんの群れは、思わぬごちそうが四、五日も続いたので、ぬま地のうちでも、そこがいちばん気に入りの場所となったようでありました。

　大造じいさんは、①会心のえみをもらしました。

　そこで、夜の間に、え場より少しはなれた所に、小さな小屋を作って、その中にもぐりこみました。そして、ねぐらをぬけ出して、このえ場にやってくる、がんの群れを待っているのでした。

　あかつきの光が、小屋の中に、すがすがしく流れこんできました。

　②ぬま地にやってくるがんのすがたが、かなたの空に、黒く点々と見えだしました。先頭に来るのが残雪にちがいありません。その群れはぐんぐんやってきます。

「しめたぞ！　もう少しのしんぼうだ。あの群れの中に一発ぶちこんで、今年こそは目にもの見せてくれるぞ。」

　りょうじゅうをぐっとにぎりしめた大造じいさんは、ほおがびりびりするほど引きしまるのでした。

　ところが、残雪は、油断なく地上を見下ろしながら、群れを率いてやってきました。そして、ふと、いつものえ場に、昨日までなかった、小さな小屋をみとめました。

「③様子の変わった所に近づかぬがよいぞ。」

　かれの本能（のう）は、そう感じたらしいのです。ぐっと急角度に方向を変えると、その広いぬま地の、ずっと西側のはしに着陸しました。

　もう少しで、たまのとどくきょりに入ってくるというところで、またしても、残雪のために、④してやられてしまいました。大造じいさんは、広いぬま

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

地の向こうをじっと見つめたまま、

「ううん。」

とうなってしまいました。

　今年もまた、ぼつぼつ、例のぬま地にがんの来る季節になりました。

　大造じいさんは、生きたどじょうを入れたどんぶりを持って、鳥小屋の方に行きました。じいさんが小屋に入ると、一羽のがんが、羽をばたつかせながら、じいさんに飛びついてきました。

　このがんは、二年前、じいさんがつりばりの計略(りゃく)で生けどったものだったのです。今では、⑤すっかり、じいさんになついていました。ときどき、鳥小屋から運動のために外に出してやるが、ヒュ、ヒュ、ヒュと口笛をふけば、どこにいても、じいさんの所に帰ってきて、そのかた先にとまるほどに慣れていました。

　大造じいさんは、がんがどんぶりからえさを食べているのを、じっと見つめながら、

「⑥今年は、ひとつ、これを使ってみるかな。」

と、独(ひと)り言を言いました。じいさんは、長年の経験で、がんは、いちばん最初に飛び立ったものの後について飛ぶ、ということを知っていたので、⑦このがんを手に入れたときから、ひとつ、これをおとりに使って、残雪の仲間をとらえてやろうと考えていたのでした。

〈椋鳩十(むくはとじゅう)「大造じいさんとがん」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「会心のえみをもらし」たときの大造じいさんの気持ちとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　がんがたくさんわなにかかったので喜んでいる。

イ　がんがたくさんえ場に集まってきたので喜んでいる。

ウ　え場近くに小屋を作ったことに満足している。

(2)　――線②「ぬま地にやってくるがんのすがたが、かなたの空に、黒く点々と見えだしました」とありますが、これは一日のうちのいつごろですか。

(3)　大造じいさんのきんちょうしている様子がもっともよく表現されている部分を、文章中から十六字でぬき出しましょう。

(4)　――線③「様子の変わった」とありますが、どのように様子が変わったのですか。文章中の言葉を使って答えましょう。

(5)　――線④「してやられて」の意味としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　こちらの力を思い知らせて

イ　自信をなくして

ウ　うまくかわされて

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(6)　――線⑤「すっかり、じいさんになついていました」とありますが、じいさんになついている様子がえがかれている文を二つぬき出し、それぞれ初めと終わりの五字を答えましょう。（、や。も一字に数えます。）

□□□□□～□□□□□

□□□□□～□□□□□

(7)　――線⑥「今年は、ひとつ、これを使ってみるかな」とありますが、じいさんは、がんのどのような特性を利用しようと考えたのですか。「～という特性。」に続くように文章中からぬき出しましょう。

（　　　　）という特性。

(8)　――線⑦「このがん」とは、どうやって手に入れたがんですか。文章中の言葉を使って答えましょう。

（　　　　）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十九講・確認（かくにん）テスト

次の言葉はいつの季語なのか答えなさい。

1　入道雲
ア　春　イ　夏　ウ　秋　エ　冬

2　桜
ア　春　イ　夏　ウ　秋　エ　冬

3　小春日和（びより）
ア　春　イ　夏　ウ　秋　エ　冬

4　赤とんぼ
ア　春　イ　夏　ウ　秋　エ　冬

5　名月
ア　春　イ　夏　ウ　秋　エ　冬

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十九講　大造じいさんとがん①（物語文）

一題目

(1)（例）左右のつばさに、一か所ずつ、真っ白な交じり毛を持っていたから。
(2) ア
(3) ㋐いまいましい（存在。）
㋑（例）残雪が来るようになってから、一羽のがんも手に入れることができなくなったから。
(4) 翌日の昼近

二題目

(1) イ
(2)（例）夜明け（早朝）
(3) ほおがびりびりするほど引きしまる
(4)（例）（いつものえ場に、）昨日までなかった小さな小屋があった。
(5) ウ
(6)・じいさんが ～ きました。
・ときどき、～ いました。
〈順不同〉
(7)（がんは、）いちばん最初に飛び立ったものの後について飛ぶ（という特性。）
(8)（例）（二年前に）つりばりの計略で生けどったがん。

〈確認テストの解答〉
1 イ　2 ア　3 エ　4 ウ　5 ウ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。